

## JIA 建築家大会 2014 岡山

### ■ 大会委員長コメント



大会委員長 錦織亮雄

「JIA 建築家大会 2014 岡山」は中国支部が16年ぶりに開催した2度目の大会でした。16年前は広島でしたが、今回は岡山で開催しました。

JIA 建築家大会は最近どんどん内容が多様になって、プログラムは盛り沢山ですから会場の準備が大変です。この多様な内容を街の中にばらまけば岡山が賑やかになり参加者も楽しめるかも知れないと、勝手な理論武装をして準備を始めました。

岡山で開催するなら倉敷も入れたい、倉敷なら大原美術館でパーティーがやりたい、丹下健三さん設計の旧倉敷市庁舎だった倉敷市立美術館もある、浦辺鎮太郎さん設計の倉敷国際ホテルもある、岡山市には最近出来た岡山コンベンションセンター(ままかりフォーラム)もある、芦原会長の父君芦原義信さんの設計になる岡山シンフォニーホールも使いたい、前川國男さんの設計になる岡山県天神山文化プラザも使いたい、岡田新一さん設計の岡山県立美術館もある、日



実行委員長 山田 暁

9月に「JIA 建築家大会 2014 岡山」が、全国各地から多数の会員参加のもと、成功裏に開催することが出来ました。

1998年に「ひろしまで未来を視る」をテーマに、さすがは広島、との評価を全国からいただいてから16年ぶりの中国支部での開催です。今回は会場を岡山市内各地に分散して— 多少ご不便をかけることになったでしょうが —、町に出ていく、町のそれぞれで建築家が集まって催しが行われている……、つまり町に溶け込むかたちの分散型大会として考えてみました。また、大会式典前日には市域を越えて、岡山の隣接都市 倉敷でのオープニングセミナー、町歩き、ウェルカムパーティー等を行いました。

「境界を越えて」のテーマのもと、市民と共に歩む公益社団法人としての意味合いが実現できたと自負しています。式典当日には、他にも多くの分科会、シンポジウム、セミナーが開催されました。特に「おかやま5会+1 まちづくり

銀を再生したルネスホールもある、そしてレセプションはホテルで、ということで、結局これら全部9箇所の会場を使って大会を開催しました。

街中に広がる会場構成は、参加するほうも開催するほうも何かと不便で手数や足数がかかりましたが、何しろ大会のテーマが「境界を越えて — 総合化に挑む建築家の使命 —」ですから、ご参加いただいた皆様は、多少の不便は克服して分散する会場とそれを結ぶ路面電車、それにそれぞれで独自に発掘された私的な会場を加えて岡山の全体像を捉え楽しんでいただいたことと手前勝手に推察いたします。

建築家大会は多様なプログラムから参加者の次なる行動への動機が生まれれば成功だと思いますが、今回のテーマ「境界を越えて — 総合化に挑む建築家の使命 —」の趣旨や、オギュスタン・ベルクさんの提起された無場所性や無基底主義による人間存在の危機、コスモス・真、善、美・技術と象徴の不可分性などいわば原点回帰の提唱は今の時代への根源的な問いかけでした。参加された皆さんの新しい動機を生むことを期待するものです。

パリに帰着したことを知らせるベルクさんのメールには、「JIA 大会に参加した若い建築家が“Junkspace”にあこがれず、連歌の国日本にふさわしい建築を創造されるように祈ります。宜しく願いいたします」というメッセージが添えられていました。

最後に、遠方からご参加いただいた来賓各位と会員の皆様、長期にわたって準備にご尽力いただいた実行委員の皆様様に心から感謝申し上げます。

協議会「JIA 災害対策委員会」「JIA 東北支部」の共催にてのシンポジウム「中国地方の自然災害の特性(その歴史性と予測)」が開かれましたが、昨今、全国各地において大きな災害に見舞われる事態が頻繁に起こっている中、時を得た催しとなりました。災害後の対応に多くの問題が起こっていて、東日本の震災後の復旧も道半ばの状況があります。これらの問題を一般市民と共に考える貴重な機会となりました。また式典後の基調講演として、フランスからオギュスタン・ベルクさんをお迎えして「建築の再コスモス化は可能か」との演題でお話をいただきました。かの国でパイロットのストがあり、来日にハラハラしたのを思い出します。

大会3日目には若手、ベテランの建築家3人による連続セミナーが、多くの建築を志す若者の参加を得て開催出来ました。

大会を通じての行政および建築系大学、専門学校、および建築設計他団体のご支援、ご協力に感謝いたします。

最後に参加いただいた会員の皆様、準会員の皆様、法人協会会員の皆様、お陰さまでほのぼのとした大会にすることができました。ありがとうございました。

支部会員の皆さまご苦勞様でした。次回は金沢での開催です。

## J I A建築家大会 2014 岡山

全国大会が中国支部で開催されたのは、1998年広島にて「ひろしまで未来を視る」のテーマで行われて以来、16年ぶりの大会です。

### ■ 大会テーマ

#### 「境界を越えて」 — 総合化に挑む建築家の使命 —

進歩を至上とした近代思想は、合理的効率的な処理手段である要素還元により、多くの「細分化された対象」と「境界」を生み出しました。

「場」と「時」と「物」と「人」という多次元のなかで環境を考える建築家は、過剰に分化されたものの「境界」に視点を置いて新しい総合に挑戦し、未来へ向かって近代を乗り越える知恵を担わなければなりません。

多様な風景と歴史に彩られた瀬戸内海を望む岡山市で開催する「J I A日本建築家大会 2014 岡山」ではテーマを「境界を越えて」—総合化に挑む建築家の使命—とし、未来への知恵を語り合いたいと思います。

### ■ 大会概要

- ・会 期：2014年9月23日（火）～9月28日（日）
- ・会 場：岡山市／岡山シンフォニーホール、岡山コンベンションセンターなど6会場  
倉敷市／倉敷市立美術館、大原美術館など8会場
- ・主 催：公益社団法人 日本建築家協会（主管：中国支部）
- ・後 援：国土交通省、岡山県など34団体
- ・参加者数：延2,000人（内J I A大会登録者数 726人／参加国数 5ヶ国）
- ・事業の概要：式典、講演、セミナー、シンポジウム、会議、展示会、パーティー、エクスカージョンなど35事業
- ・広報の方法：会報誌、ホームページ、新聞、ポスター、チラシなど
- ・内 容：「境界を越えて」のテーマのもと、大勢の県民参加があり、公益社団法人として市民と共に活動する意味合いが実現できた大会でした。  
多様なプログラムがあり、参加者は次なるまちづくり活動へ向けての動機を生むことが十分期待できる内容のものとなりました。



## ■ 大会プログラム一覧

### 9/25 (木) 倉敷会場

- ・13:00～15:30 理事懇談会
- ・13:30～15:30 講演「倉敷の特徴ある近代建築の創出」
- ・15:30～17:30 倉敷の町並み紹介、町歩き
- ・13:30～17:00 フレッシュマンセミナー  
(フェロースhip委員会)
- ・15:00～17:00 シンポジウム「良質な建築・まちづくり  
のアドバイス機構」
- ・15:00～17:00 建築家資格制度をめぐる状況と登録建築家  
の今後(職能・資格制度委員会)
- ・15:00～17:00 リフレッシュセミナーREUNION
- ・16:00～17:45 全国支部長OB会
- ・15:00～17:00 全国地域会長会議
- ・18:00～20:00 **ウェルカムパーティー**  
倉敷国際ホテル/大原美術館

### 9/26 (金) 岡山会場

- ・7:30～9:00 公益事業について
- ・10:00～12:00 シンポジウム「エピソードを通して偉大  
な建築家たちの教えを学ぶ」
- ・9:30～11:30 国際シンポジウム(国際交流委員会)
- ・9:30～11:00 全国住宅部会連絡会議(住宅部会)
- ・9:30～12:00 (仮称)文化財保存再生全国会議  
(キックオフ会議)
- ・9:30～12:00 一般実務者のための伝統的構法木造建築  
物の設計法(山口地域会)
- ・10:00～12:00 シンポジウム「中国地方の自然災害の特性  
(その歴史性と予測)/東日本復興報告」  
(おかやま建築5会+1まちづくり協議会/  
JIA災害対策委員会/JIA東北支部 共催)
- ・9:30～11:30 里山資本主義の実現に向けて  
(鳥取・島根地域会)
- ・10:00～12:00 法人協会会員サミット
- ・11:00～12:00 JIA建築相談室会議
- ・14:00～14:40 **大会式典**
- ・14:40～15:00 JIA中国建築大賞表彰式
- ・15:15～17:00 **基調講演「建築の再コスモス化は可能か」**  
**講師:オギユスタン・ベルク氏**
- ・13:00～18:00 岡山のお土産販売/美作絵、CLT等展示
- ・17:30～18:15 会長レセプション
- ・18:30～20:30 **レセプションパーティー**  
ホテルグランヴィア岡山

### 9/27 (土) 岡山会場

- ・10:00～11:40 連続セミナー1 前田 圭介氏
- ・13:00～14:40 連続セミナー2 出江 寛氏
- ・15:00～16:40 連続セミナー3 坂 茂氏
- ・13:30～16:30 建築家のあかりコンペ2014公開審査
- ・12:30～17:00 JIA環境会議  
風土に根差した魅力的な環境デザイン  
住まいの省エネ基準適合義務化をみすえて

### 9/27 (土) エクスカーション

- ・8:00～17:30 直島ツアー
- ・8:30～17:00 バイオマスツアー
- ・9:00～17:00 旧閑谷学校ツアー
- ・9:00～12:00 岡山市内ツアー

### 9/23 (火)～9/28 (日) 展示

・**展示会場 岡山県天神山文化プラザ(第2・3・4展示室)**



## ■ 大会式典

会場 岡山シンフォニーホール 大ホール

大会のメインである大会式典は9月26日、岡山シンフォニーホールにて行われた。

はじめに開催地中国支部を代表して、錦織亮雄大会委員長が今大会のテーマ「境界を越えて — 総合化に挑む建築家の使命 —」のもとに、この多様な風景と歴史に彩られた岡山で、未来への知恵を語り合おうと歓迎の挨拶を行った。

続いて、芦原太郎 JIA 会長が挨拶。JIA の役割として、市民・行政・専門家の境界を無くすのではなく、いかに越えてゆくかをそれぞれの地域で工夫しながら、より良い建築・まちづくりを推進して行くこと。これからの建築家は、建築空間の境界を越えて、建築家職能の境界を越えて活躍して行くことを確認できれば、この大会の大きな成果になるとの認識の共有を求めた。

その後、来賓の挨拶として国土交通省住宅局大臣官房審議官、杉藤崇氏よりご挨拶をいただいた。

AIA、ASA、KIRA、KIA の代表団、国内関係団体等の来賓紹介を経て、海外来賓を代表して、AIA アメリカ建築家協会のヘイリーン・ドレイリング氏からお言葉を頂戴した。

式典最後に、芦原 JIA 会長より、キム・ヨンス氏 (KIRA)、ヘイリーン・ドレイリング氏 (AIA)、坂茂氏 (欠席) への名誉会員授与式が行われた。



## ■ 基調講演

### 「建築の再コスモス化は可能か」

講師：オギュスタン・ベルク 氏

「建築の再コスモス化は可能か」と題し、フランスよりオギュスタン・ベルク氏を迎え、講演していただいた。

基調講演概要は「人間の価値とコスモス性」「都市・国家計画及び建築の再コスモス化」。コスモスとは「善」「美」「真実」を絶え間なく結びつける包括的な秩序であり、建築の再コスモス化とは、コスモス性を具体的に風土に結びつけるもの。すべて地上から立ち上るのである—今後の我々の建築に対する姿勢について深く考えさせられる内容の講演だった。

## ■ 展示

会場 岡山県天神山文化プラザ 第2、第3、第4展示室

前川國男設計の岡山県天神山文化プラザを会場に9月23日から28日までの期間で行いました。全国で受賞された作品の展示から地元中国地方での作品まで多彩な展示でしたが、JIA 会員はもちろん、学生や建築に興味のある方々など JIA 会員以外の多くの方にも来場していただきました。中には会場である前川作品の建物見学と合わせて来場された方もおられ、JIA の活動を紹介するうえで有意義な展示会でした。

### 【展示内容】

- ・日本建築大賞
- ・日本建築家協会賞
- ・JIA 新人賞
- ・JIA25 年賞
- ・環境建築賞
- ・JIA 全国学生卒業設計コンクール
- ・建築家のあかりコンペ
- ・アーカイヴス委員会
- ・JIA 中国建築大賞
- ・広島街づくり (JIA 中国支部広島地域会)
- ・JIA 中国支部会員作品



■ ウェルカムパーティー (9/25)

18:00 ~ 19:30 大原美術館  
18:30 ~ 20:00 倉敷国際ホテル



■ レセプションパーティー (9/26)

18:30 ~ 20:30 ホテルグランヴィア岡山  
4階フェニックス



■ J I A 建築家大会 2014 岡山 実行委員会

大会委員長／錦織亮雄  
副委員長／村重保則  
副委員長／龜谷 清

実行委員長／山田 暁  
副委員長／大旗 健  
副委員長／杵村優一郎  
副委員長／久保井邦宏  
副委員長・総務／藤田佳篤  
大会顧問／倉森 治  
大会顧問・監査／僊石友秋  
大会顧問・監査／奥田 實  
大会顧問／柳 勝巳

広報委員会／高志俊明  
山田孝延  
財務委員会／倉森 治  
柳 勝巳  
岡山地域会／大石雅弘  
交流部会／松永高雄  
来賓接遇委員会／黒川隆久  
佐藤正平  
宮崎勝秀  
村重保則

岡山シンフォニーホール (式典・基調講演) /	チーフ	山田 暁 江角俊則 武田賢治	大瀧珠乃 千原康弘	大旗 健 錦織亮雄	倉森 治 藤田佳篤	来間直樹 松永高雄
倉敷市立美術館・倉敷物語館・旧大久保邸 など (セミナー・倉敷のまち歩き他) /	チーフ	中桐慎治 大月 始	高田 一	中田利幸	元廣清志	和田洋子
大原美術館・倉敷国際ホテル (ウェルカムパーティー) /	チーフ	中村陽二 檜村 徹	村重保則	渡辺俊雄	和田洋子	
ホテルグランヴィア岡山 (レセプションパーティー) /	チーフ	宇川民夫 赤木 定 原 浩二	杵村優一郎 藤田佳篤	久保井邦宏	柴田晴夫	
岡山コンベンションセンター (セミナー・ワークショップ・会議) /	チーフ	大石雅弘 大江弘康	龜谷 清	田中輝幸	藤田佳篤	
岡山県立美術館 (連続セミナー) /	チーフ	佐々木満 赤澤輝彦	久保紳哉	垂井俊郎	塚本雅久	
エクスカージョン /	チーフ	武田賢治 塚田 隆	土田利行	花田則之	山名千代	湯浅康夫
岡山県天神山文化プラザ・ルネスホール (展示・建築家のあかりコンペ公開審査) /	チーフ	山田孝延 神家昭雄	武村耕輔	高橋幸子	山根秀明	
建築相談 / 宇川民夫 環境行動ラボ / 大角雄三 卒業設計コンクール / 山田孝延 リフレッシュセミナー / 白根博紀 住宅部会 / 来間直樹 資格制度 / 堤 敏明	あかりコンペ / 武村耕輔 ホームページ / 高志俊明 国際会議 / 奥田 實 宮崎勝秀 会長レセプション / 僊石友秋	中国支部事務局 / 天王和恵 岡山地域会事務局 / 大野眞美 藤田知恵				

2015年3月19日 第10回実行委員会をもって全完了しました。皆様大変お疲れ様でした。  
大会実行委員会 副委員長 藤田佳篤

## 第6回 JIA中国建築大賞2014

### ■ 審査報告



JIA 中国建築大賞実行委員長 垂井俊郎

「第6回 JIA中国建築大賞2014」はJIAの建築家憲章の理念『建築家は自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承、発展させ地球環境を守り安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。』に基づき中国5県に造られた作品のうち、優れた建築デザイン、建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰致します。

応募建築作品は最近10年以内(2004年1月から2013年12月まで)に竣工した建築作品で一般建築部門・住宅部門の2部門とし、審査委員長は 建築家 内藤廣 先生、審査員は 建築家 倉森治 先生、建築家 錦織亮雄 先生にお願いしました。

応募は5月1日から6月30日まで行い、全国の建築家から一般建築部門は15作品、住宅部門は14作品の合計29作品の応募がありました。

7月中旬に一次審査・書類選考を行い、一般建築部門は9作品、住宅部門は6作品の計15作品が現地審査対象作品として絞られました。

8月4日と6日山陰方面、8月5日山陽方面の3日間にわたり、審査員による現地審査を行い、応募者立会いのもと建築主へのヒアリングも行われ、写真だけで分からない建築の本質についても審査対象としました。中国建築大賞の重みを実感する事となりました。

内藤廣 先生、倉森治 先生、錦織亮雄 先生による、厳正な審査の結果、一般建築部門・大賞1作品、特別賞1作品、優秀賞6作品、住宅部門・大賞1作品、特別賞1作品、優秀賞3作品が選ばれました。

9月25日から9月27日にかけて開催された『JIA建築家大会2014岡山』にて入賞者発表を行い審査委員長 建築家 内藤廣 先生の講評と受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

応募・審査期間中、多くの方々のご協力、ご支援、ご配慮をいただき、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。今後も「JIA中国建築大賞」が中国地方の社会的・文化的な発展を担うことを期待しております。

### ■ 審査委員

審査委員長 内藤廣 (建築家)  
審査員 倉森治 (建築家・JIA 名誉会員)  
審査員 錦織亮雄 (建築家・JIA 名誉会員)

### ■ 総 評

審査委員長 内藤 廣  
(建築家・東京大学名誉教授)

毎年、審査委員である広島錦織亮雄さんと岡山倉森治さん、各地域の幹部の方たちと一緒して建物を見て回ります。中国地方は広いので、現地審査はなかなか大変です。それでも道中の建築談義が面白く、また、重鎮お二人の建物評を聞くのも貴重な時間です。

今年はレベルの高い作品の応募が多い年でした。これはこの賞の価値をより多くの会員が認めてくださりつつある証です。審査員冥利に尽きます。現地審査の数も例年より多くなりました。選に漏れた作品もありましたが、意欲的に応募していただいたことに感謝したいと思います。敷地条件やコストや施主の事情など、建築はいろいろな事情を抱えて出来上がってくるものですから、時に作品として克服しがい問題を抱えることもあります。応募された方々は、幾つかの条件がそろったときにいずれ受賞される方だと思っています。地域の建築を盛り立てていくためにも、今後とも応募のほどよろしく願いいたします。

昨年度から受賞に値するすばらしい作品を生み出すに当たって、深いご理解をいただいた施主の方も表彰させていただくことになりました。当たり前といえば当たり前のことです。これまでそのようにしてこなかったことの方がおかしい。これからも、この賞は当たり前のことをやっていきます。加えていうと、それならば優れた作品を現実に結実させた施工者や職人も表彰すべきではないか、という声も出ました。これからの課題です。